

## 令和4年度終業式 校長講話

令和4年度が本日で終了します。皆さんにとっての令和4年度はどんな年になりましたか？感染症との闘いは相変わらず続いた年度でしたが、皆さんの意識により感染が拡大するようなこともなく、また皆さんの努力によってこのコロナ禍であっても、部活動・生徒会行事、誰も経験したことのない中であらたな挑戦と、新境地を切り拓くことができたのでは と思います。私は本年度1年間皆さんの様子に触れ、一生懸命でまじめにさまざまに前向きに取り組む皆さんを、とても誇りに思うと同時に、ここまで3年間できなかった、たくさんの「機会と経験」が生み出せて行かれるよう、私も努力したい と思うところです。

大人の世界では、前年踏襲という、あまりよい意味で使われない言葉があります。昨年と同じことをやっていけば、楽だという考えですね。しかし、何度か紙面を通じてもお話させてもらっているように、前年のものに捕らわれていては、昨日と今日でも世界が一変しているような世の中では、未来を切り拓くことはできません。想像もできない早いスピードで変化する現在の情勢で、前年踏襲でいきましょう という姿勢からは何も生まれません。人と同じことをやっていけば安心感もあるでしょう。しかし、このコロナ禍でわかったように、以前と同じことができないそして、通用しないとなっている今、どのように発想の転換をしていくか。どの場面で、どの経験の引き出しから、そんなものを出してどう対応していくか、そのためにも経験の引き出しをいくつも用意していく必要も生まれてきます。わくわくしながらたくさんのことを経験して吸収して、その蓄積をどうアウトプットしていくか、そんな学びが皆さんの周りにはたくさんあふれているんだ ということを知ることとても楽しいことです。

「プレジデント社」の「ずるい問題解決の技術」というコラムの中に、このようなものがありました。目の前で問題が起きた時、あなたならまず何をするでしょうか。問題を解決するとき最初にすべきことは、どこが問題点なのかを見極めることです。実はこれが案外難しく、問題の本質を見誤ったために間違った解決策を実行してしまう という例は世の中にたくさんあります。問題点を見極めるのが大事なことがよくわかる有名なエピソードがあります。ある古いオフィスビルで、テナントに入っている企業やビルの利用者から「エレベーターが遅くて困る」という苦情が何件も寄せられました。さてこの問題をどうやって解決するでしょうか。まず思いつくのは、①高層階と低層階用にエレベーターを分ける。②細心の制御システムに取り換える③エレベーターの台数を増やす といった解決策でしょう。このビルのオーナーも、専門家に調べてもらって、同じような解決策を提案されました。しかし、いずれも費用が莫大にかかりすぎて、このビルの収入ではダメでした。その間もクレームは無くならず、困りはてたオーナーは部下にアイデアを出させます。そしてそのアイデアを採用したところ、最小限の予算で苦情は1件もなくなった ということです。さて、皆さんはそのアイデアがわかりますか。若い部下が出したアイデアは、「エレベーターの待合ロビーに鏡を付ける」ということでした。つまり、苦情をいう人の立場からする

と、待ち時間が長いということが問題点で、その長い待ち時間を有効に使えるものがあれば問題が解決するということだったのです。

こういったアイデアが出てくるという原点には、さきほどの話のように、自分の体験や学んだことの経験、失敗したことの経験が活かしていることになりますね。人生生きていく中で、無駄なことなど1つありません。勉強や部活動の含め、今皆さんがやっていることは必ず今後の人生に生きていきますし、今ここにいること自体が、大きな学びなのかもしれません。そんなことを頭におきながら、次年度、皆さんには、たくさん景色を見てほしいと願っています。